

曲面屋根には世田谷ベースでお馴染みの『Rスパン』を採用！



世田谷ベースでも採用された、高耐久ガルバリウム曲面屋根「Rスパン」の工事も始まりました。この屋根を用いる事で、2Fは豊かな吹き抜けのある圧巻の空間になります。最上部の二本のスリット窓から差し込む朝の光は、一日の喜びと元気をもたらしてくれることでしょう。天井に趣味のグッズを思う存分つりさげて、自分だけの空間を演出してください。この吹き抜け仕様は、Rスパンの合理的な経済性の賜物なのです。

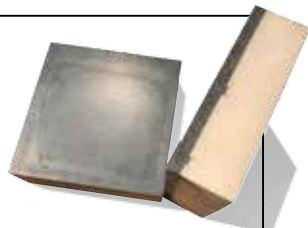
Rスパンは、現場に材料ロールを運び込んで、その場でR形状に曲げていきます。最前線基地の格納庫の材料として開発されたので、いつでもどこでもスペースさえあればドーム型の



の大空間を作る仕様なのです。いわば、巨大な鉄のテント。しかも屋根を支える骨を必要としません。動物の世界でいうと外骨格。フナムシやマツムシのような原始的な生物の甲羅に習ったもので、単なる三角屋根ではなく、そのような武骨な材料を適材適所で使用していることも住んでいる人の愛着を永い間持続させる大切な要素なのです。

これで寒い！ ガレージ上階にはオリジナル断熱材「Gスラブ」を採用！

グラスファイバーで強化されたコンクリート版と50mm(北海道は80mm)の断熱材を一体成型した床版「Gスラブ」。ガレージ空間の鉄骨を露出させながら、そのイメージを増幅させる最良の素材として開発しました。この素材は、まさにGLBのために生まれてきた材料なのです。



3棟合計で25世帯のモーターライフ前線基地 AREA053は7月29日より内覧開始です!!

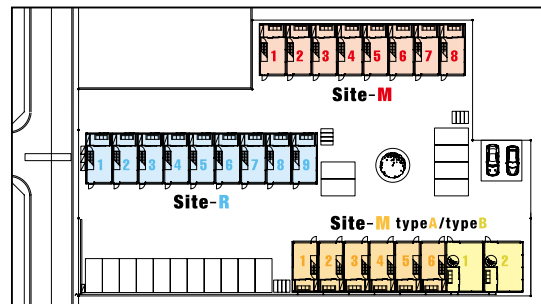
北海道苫小牧の趣味人が集まるガレージアパートメント「AREA053」は、単にクルマやバイクの格納に留まりません。アウトドア用品やATVやボート、カヌーなどで爽やかな北海道の夏を満喫し、冬になったら、スキーやスノーボードと言った定番ギアはもちろん、スノーモービルなどの乗り物系も格納し、ウインタースポーツのベースとして使うのもピッタリです。更に居住者同士がお互いに情報交換し合っ、今まで知らなかった新たなライフスタイルの扉をあけるのも楽しい事でしょう。

そんな豊かな趣味生活を進展させていける遊びの前線基地に、命が吹き込まれる日もよいよ間近。7月29日から、いよいよ内覧会がスタート。同時に正式入居契約も開始します。現在は事前募集中。続々予約が入っていますので、ご興味ある方は是非お早めにお問い合わせください。入居開始は9月下旬の予定です。



FLOOR PLAN

全戸数25世帯のAREA053は、3つの棟に分かれています。南向きのsite-Rとsite-H、site-Mは北向きで若干お家賃がお安めとなっています。また、車幅の広いクルマのユーザーのために、3スパンの広いタイプを2世帯site-Mに用意しました。詳しい仕様は、下記のHPで検索をお願いします。



AREA 053

www.daytona-house.com/area053

area053.site | DAYTONA HOUSE HOKKAIDO |

デイトナ不動産 VOL.2



北海道苫小牧に
9月を目途に
オープンします！

GLBの記念すべき第1号物件 AREA053が着々と建築中

ガレージ付きアパート「GLB」で、楽しいライフスタイルを紹介し、同時に新規の賃貸募集情報をお知らせする新企画「デイトナ不動産」。今月は、現在苫小牧に建設中のGLB第1号の途中経過をレポートします。



GLBアパートメントAREA053とは？

デイトナハウスの軽量鉄骨システム工法、「LGSシステム」で作り上げる新機軸ガレージアパートメント「GLB」の真骨頂は、何と言ってもそのハードボイルドなガレージ内部の空間性です。ツヤ消し黒のパウダーコーティングの鉄骨とガルバリウム鋼板は、これぞ男心をくすぐる鉄のコントラスト。次号ではその内部空間を写真でご覧いただく予定です。

AREA053 祝上棟！

前回ご紹介した、GLB。その名称は、ガレージ・リビング・ベッド。の略で、クルマ&バイク好きにとって、それだけあれば十分！ というテーマの元、設計される物件です。そんなデイトナハウスのLGSで作る新機軸のガレージアパートメント「GLB」。その記念すべき第1号物件「AREA053」の建築工事が、北海道の苫小牧市内で着々と進行しています。

(全体では25世帯が並びます。2F建てのアパートの上部には世田谷ベースでお馴染みの曲面屋根を採用し、吹き抜け空間を構築。その空間性の豊かさは特筆すべきモノです。また、鉄骨の素材感と緊張感がそのまま露出したガレージ内部は、鉄の無骨さをそのまま残したイメージ。ここ日本においては、このようなガレージアパートはまだ存在していないと言っても過言ではありません！まさに日本初の試みですが、クルマ好き、バイク好きの趣向性を考えると、今までなかったことが逆に不思議なくらいです。

ともかく、モーターライフの達人たちのための至福の空間がこうして出来上がりつつあるということは、実にワクワクするものです。